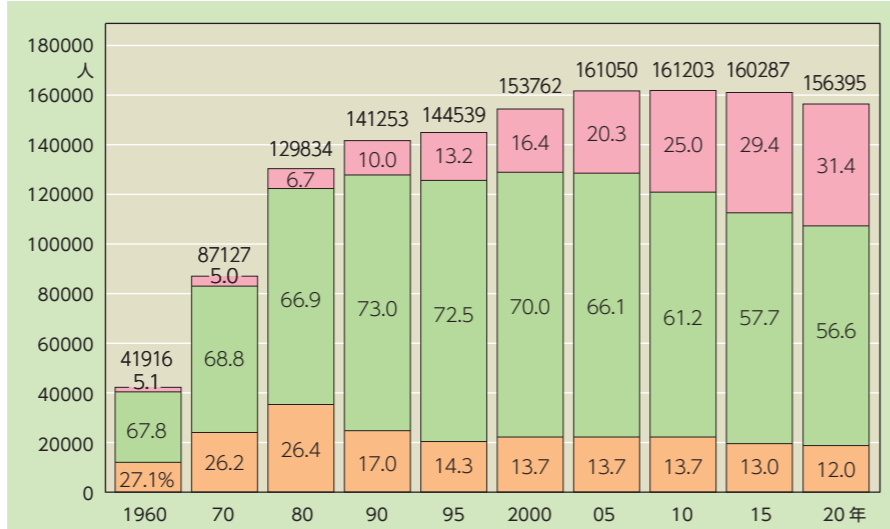


1960年代以降の人口の推移について、川西市の発展の要因をもとに考えましょう。

- 65歳以上。老年人口。
- 15～64歳。生産年齢人口。年層別人口のうち、労働力の中心になっています。
- 0～14歳。年少人口。



川西市の総人口と年層別人口割合の推移 [「川西市年齢・男女別人口表」(1960～2000年は「国勢調査」、2005～2020年は「住民基本台帳」および「外国人登録人口」)、各年9月末現在]

5 川西市の産業

サービス業
 さまざまなサービスを提供する業務。例えば、理容、ホテル、娯楽、修理、放送、情報サービス、広告、医療、宗教、教育などの事業をいいます。

卸売・小売業
 「卸売」とは、生産者から大量に商品を買入れて、これらを小売業者に売り渡す仕事をいい、「小売」とは、卸売業者などから仕入れた商品を、最終的に消費者に直接販売する事業をいいます。

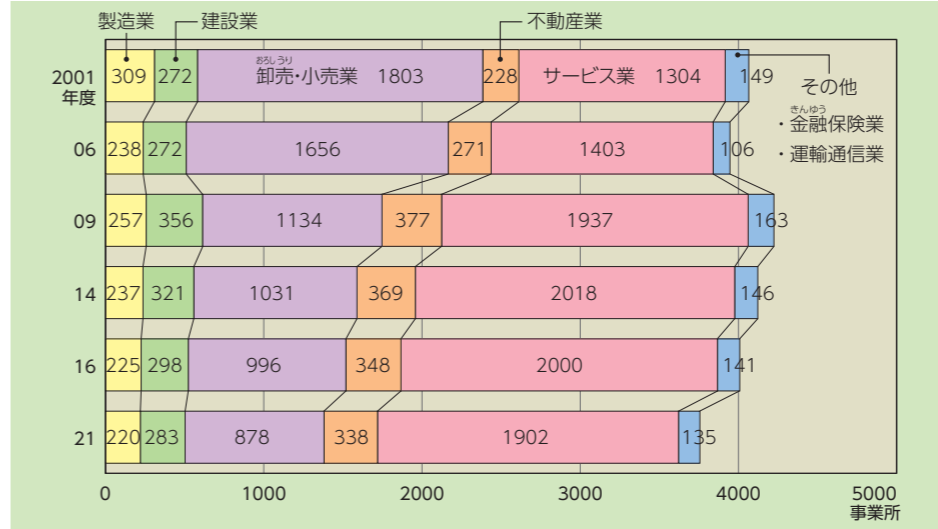
不動産業
 土地や建物の売買や賃借、管理などを行う事業をいいます。

1 川西市の産業の現状と人口

川西市の人口は、1960年代ごろから急速に増加し、2004(平成16)年には16万人を超えました。その後、2010(平成22)年をピークに、現在は少しずつ減少しています。特に、15歳未満の人口が減少し、65歳以上の高齢者の人口が急速に増加するなど、少子高齢化が進行しています。このことは、川西市に住む市民がものを消費したり、住宅を購入したりすることなどの減少につながるとともに、地域経済を支える生産年齢人口の減少といった問題も引き起こしています。

川西市の産業は、住宅地の開発により都市が発展してきた歴史から、産業別ではサービス業や卸売・小売業、不動産業が多く、事業所数の約80%、総生産額の約70%以上をしめています。

また、ものを生産する製造業で、事業所数および従業者数のいずれも減少が続いています。さらに、卸売・小売業においても、同じように事業所数の減少傾向が見られます。一方、生産額ではサービス業が増加傾向にあり、市内全体の総生産額にしめる割合としても増加しています。



川西市の事業所数の推移 [2001・2006年度…「事業所・企業統計調査」、2009・2014年度…「経済センサス基礎調査」、2016・2021年度…「経済センサス活動調査」]

2 事業所数の推移

川西市の事業所数の推移を見ると、2006(平成18)年度から増加傾向にありました。しかし、2009(平成21)年度をピークに、その後の調査では減少傾向が続いています。2021(令和3)年度の事業所数では、サービス業が最も多く、次に卸売・小売業、その次に不動産業、建設業と続いています。



川西能勢口駅前の商業施設

建設業
 住宅などの建設工事の完成を請け負う仕事で、大工、左官、屋根・電気・内装仕上げ、塗装などの土木建築に関する事業をいいます。

川西市の産業の特徴を、グラフ「川西市の事業所数の推移」、本文などを基に考えましょう。

①グラフ「川西市の事業所数の推移」から、2021年度の上位三つまでの事業所の種類を挙げましょう。

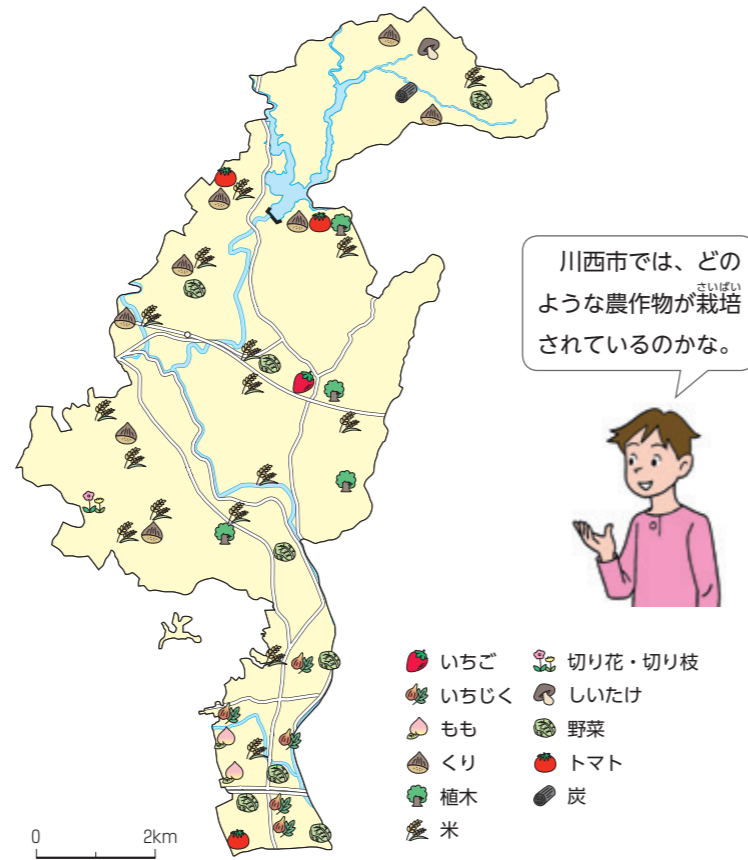
②①について、どうしてそのような結果になるのでしょうか。p.12を参考にその背景について考えましょう。



もも



北摂栗



6 川西市の農業

市場

もの(商品)を売る側と買う側によって、売買されるところをいいます。



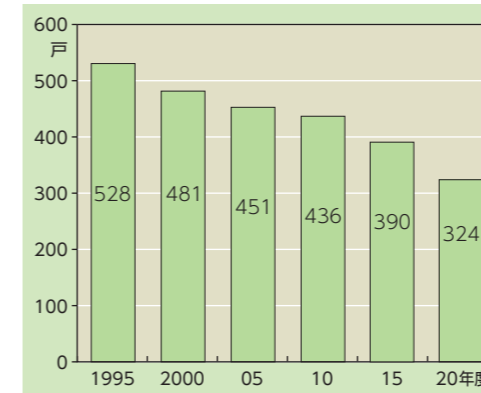
黒川地区の一庫炭(菊炭)



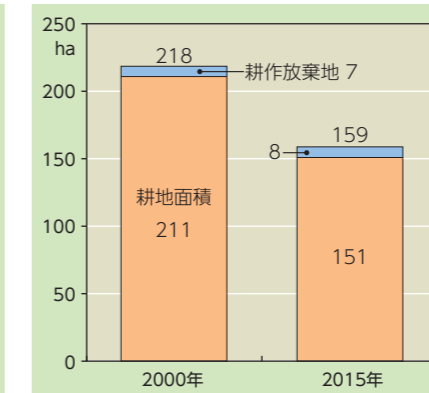
西畦野の水田



黒川ファーム



川西市の総農家数の推移



川西市の総農家の耕地面積と耕作放棄地

耕作放棄地

農作物が1年以上作付けされず、農家が数年のうちに作付けする予定がないと回答した田畑、果樹園のことをいいます。

ヒートアイランド現象

人口が集中する都市部の気温が、周辺地域より高くなる現象をいいます。

2 農地の保全

農地は農作物を生産するだけでなく、ヒートアイランド現象の発生を抑えるなど、住んでいる地域の環境を守る機能を有していることから、その保全が求められています。

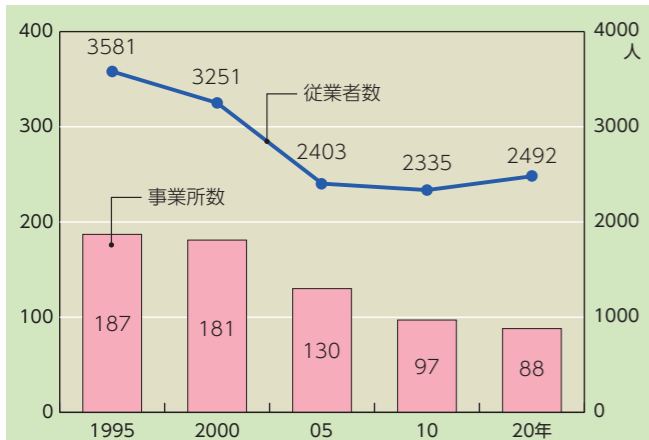
川西市では、農地を保全するための対策の一環として、耕作放棄地の市民農園としての活用や、新たな担い手の育成などが進められています。

3 川西産の農林産物のPR

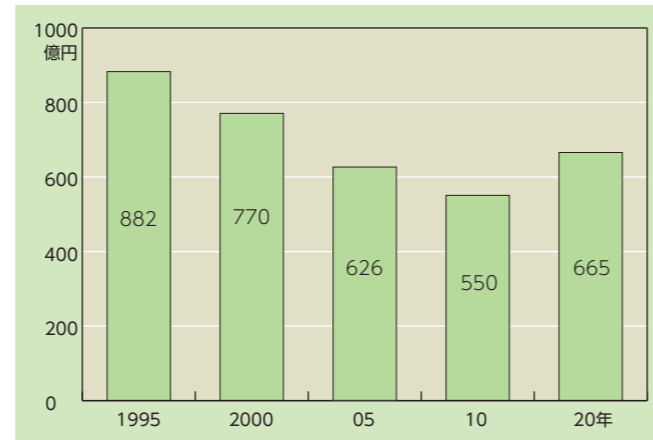
近年、安全で安心な食に対する関心が高まっています。そのような背景の中、市では、川西産の農林産物を市内外にPRしています。地元産の野菜をはじめ、川西南部のグループが作るジャムなどの加工品や黒川地区で採れた原木しいたけなどが、川西南部直売所や黒川ファーム、生産地近くの直売所などで販売されています。また、市の中心部では、いちじく、もも、くり(北摂栗)などの特産物の即売会も行われています。



いちじく即売会



川西市の製造業の事業所数と従業者数の推移 [「工業統計調査、2015年は中止」]



川西市の製造品出荷額などの推移 [「工業統計調査、2015年は中止」]

7 川西市の工業

製造業

原材料などを加工することによって製品を生産・提供する産業で、家電製品や自動車といった工業製品のほか、コンビニエンスストアなどで売られる弁当や飲料を作ることも製造業にふくまれます。



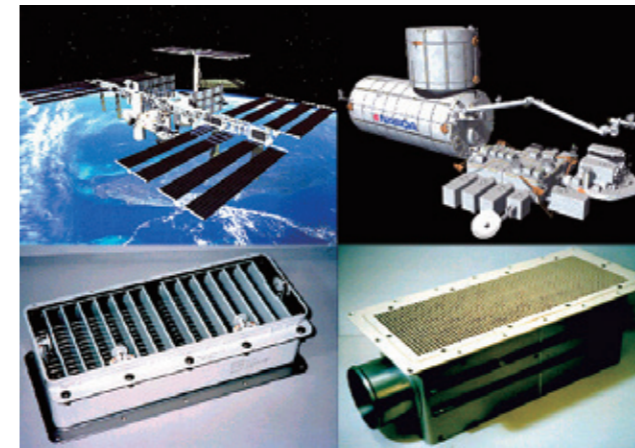
工場と住宅が混在している地域(加茂)

1 工業の現状

川西市の工業の特徴は、小規模や中規模の事業所数の割合が高いことが挙げられます。これらの事業所の多くが、長期化する景気の低迷などによって経営が厳しい状況となっています。工場の廃業や移転によって空き地となった土地では、マンション建設などの住宅開発が進み、住宅と工場に限られた地域の中で混在している「住工混在」の状態になっています。騒音の問題などから、工場が操業しづらい状況も生まれています。そのため近年では、経営が厳しい状況や、将来的に工場を操業していくことがますます難しくなっていく見通しから、製造業を中心に工業の事業所数や従業者数、製造品出荷額が減少する傾向にあります。2020(令和2)年については、電気機械器具の製造が伸び、出荷額が増加しています。

2 工業の発展に向けて

川西市には、工場が多く集まっている地域と、「住工混在」の地域があります。工場はものを製造するほかに、地域の住民に働く場所を提供したり、売上げの一部を市に税金として納めたりするなど、地域社会において大切な役割も担っています。川西市においても、騒音などの問題と向き合い、工場が操業を続けることができる環境を維持する取り組みが必要となっています。



国際宇宙ステーション「きぼう」と空調システム

3 世界に誇れる技術をもった企業

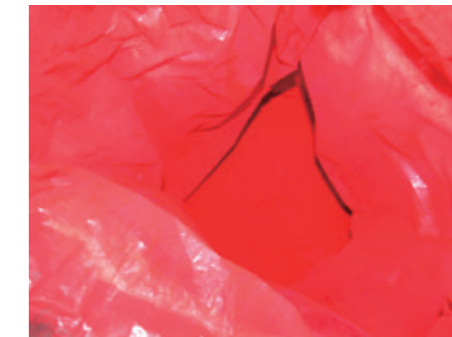
工場を経営していくことが厳しい状況の中でも、川西市内には、世界に誇れる技術をもった企業が活躍しています。例えば、航空・宇宙分野で用いられる部品の設計や製造などに携わり、航空機の安全を高品質の部品で支える企業があります。この企業では、国際宇宙ステーション「きぼう」の空調システムの構成品など、さまざまな部品を造っています。また、塗料やインク、プラスチックの着色剤である赤色顔料を製造している企業は、世界トップレベルの品質を誇っています。この赤色顔料を加工したインクは、ボールペンやサインペンに使われています。このほか川西市には、自動車などの部品を加工する際に、極小単位の精度を出せる技術を取り入れた精密機械器具メーカーなど、高い技術力をもった企業があります。

また、川西市にある観光資源を生かし、新たな商品づくりに取り組む企業も出てきています。

あなたが川西市にあったらよいと思う工業や企業(工場や会社)を挙げましょう。

.....

.....



ボールペンなどのインクに使われる赤色顔料

※顔料…色のついている物質で、水や油にとけないものをいいます。



極小単位の精度を出せる「先端取替式」技術



清和源氏をイメージした兜

8 川西市の商業

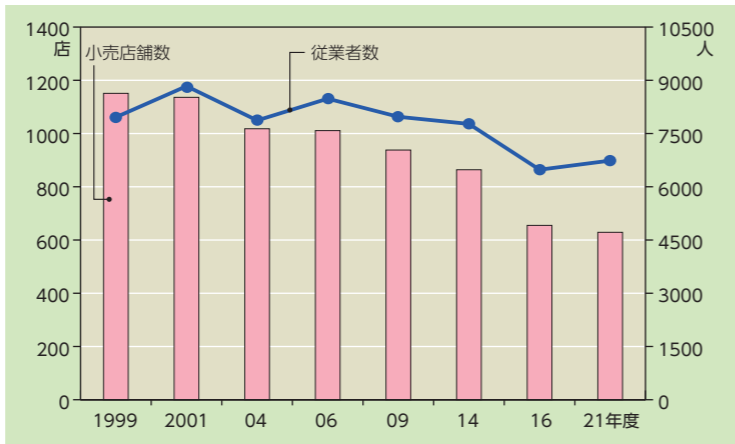


↑ キセラ川西にオープンした大型商業施設

どうすれば地元の商店街が活性化するか、考えてみましょう。



↑ 川西能勢口駅前の商業施設



↑ 川西市の小売店舗数と従業者数の推移 [1999・2004年…「商業統計調査」、2001・2006年…「事業所・企業統計調査」、2009・2014年…「経済センサス基礎調査」、2016・2021年…「経済センサス活動調査」]

1 商業の現状

川西市の商業は、1973（昭和48）年ごろから川西能勢口駅周辺で、駅前の再開発事業が進んだこともあって、発展をとげてきました。近年では、近隣の他の都市に大規模なショッピングセンターが相次いでできたことで、地元の商店街との競争が激しくなっています。これによって市内の商店が経営不振におちいるなど、地域の商業が衰退する傾向にあります。

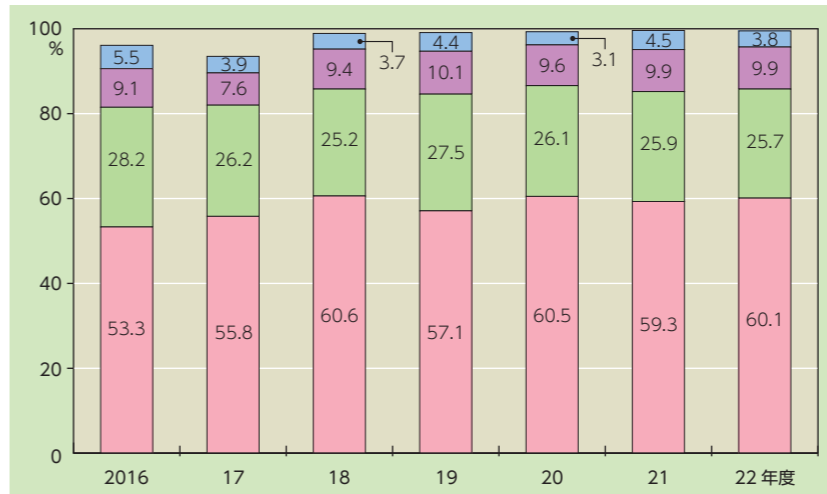
そのような中で、2018（平成30）年には鼓滝駅前に、2019（令和元）年にはキセラ川西に、大型商業施設が相次いで開業しました。これらの施設は、さまざまな店舗が入った複合型施設であり、開業によって地域の活性化が期待されています。

2 小売店舗数と従業者数の推移

川西市の小売店舗数と従業者数の推移を見ると、1999（平成11）年から店舗数の減少傾向が続いているものの、従業者数は増減を繰り返し、全体として横ばい状態となっています。

3 市内での買い物状況

市内での買い物状況を見ると、「ほとんど市内で買い物をする」と「どちらかといえば市内で買い物をする」とを合計すると、80%以上の市民が市内で買い物をするという回答をしています。



↑ 市民の買い物状況の推移 [「川西市市民実感調査」]

■ ほとんど市外で買い物をする ■ どちらかといえば市外で買い物をする
 ■ どちらかといえば市内で買い物をする ■ ほとんど市内で買い物をする

4 まちのにぎわいづくり

川西能勢口駅周辺やキセラ川西をふくむ中心市街地のにぎわいづくりのために、川西能勢口の駅前や藤ノ木さんかく広場を活用したイベントなどが開催されています。また、中心市街地以外の商業地域で、各地域の商店会などが「大和夢ナリエ」などのイベントを実施しています。

5 観光推進によるにぎわいづくり

地域のにぎわいを創り出すためには、市外からの来訪者を増やすことが重要です。市民がイベントや行事に参加することで地域への愛着をもち、その魅力を広く発信することで、市外からの来訪者を増やすことができます。

川西市では、清和源氏と関わりの深い多田神社をはじめ、満願寺や頼光寺といった寺院、黒川地区の自然豊かな里山など、観光資源として魅力的な場所が数多くあります。こうした観光資源を生かした、「清和源氏まつり」や「猪名川花火大会」などのイベントを開催することにより、さらに市外からの来訪者が増えることが期待されています。



↑ 藤ノ木さんかく広場を活用したイベント



↑ 清和源氏まつり



↑ 頼光寺



川西猪名川線(西多田)



能勢電鉄妙見線



川西市の主な交通

1 川西市の公共交通

川西市では、大阪郊外のベッドタウンとして大規模なニュータウンが開発され、それとともに、鉄道やバスなどの公共交通機関が発展してきました。鉄道は、川西能勢口駅から市内を南北に縦断するように能勢電鉄妙見線・日生線が通っており、市内の主要な場所を結ぶ輸送機関として機能しています。

また、市内の主要なバス路線では、川西池田駅、川西能勢口駅や能勢電鉄の主要な駅と、市内のニュータウンなどを結び、市民を運ぶ役割を担っています。特に、市内中西部の清和台やけやき坂などのニュータウンでは、都市計画道路川西猪名川線を通して、川西能勢口駅や川西池田駅へと向かうバス路線が重要な役割を果たしています。

9 川西市の交通

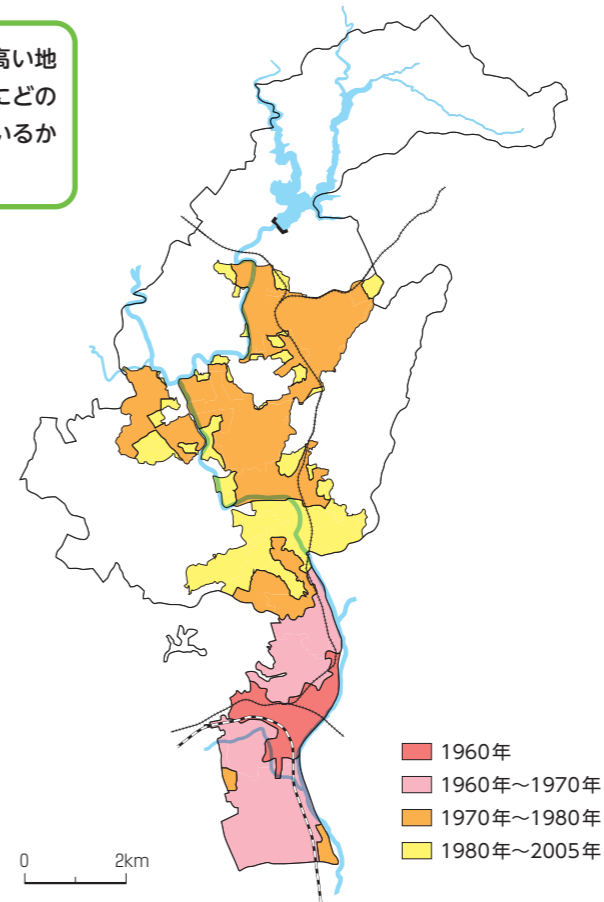
ベッドタウン

大都市周辺で、住宅地を中心に発展した都市や住宅団地。大都市へ通勤・通学する人が夜に眠る場所があるまちであることから、このようによびます。

ニュータウン

新しく計画的につくられた都市や大規模な団地。大都市での住宅不足や住環境の悪化を解消するため、郊外につくられました。大阪府の千里ニュータウンなどがあります。

人口密度が高い地域は、年代ごとにどのように変化しているか考えましょう。



川西市における人口密度の高い地域の広がり

2 川西市の道路交通網

川西市の人口の移り変わりをたどると、1960年代には、川西能勢口駅や川西池田駅を中心とした地区に人口が集中していました。その後、市街地が拡大し、中心市街地周辺部やニュータウンの地域に人口が集中するとともに、主要な道路交通網も整備されていきました。

現在、川西市の幹線道路としては、南北に国道173号と477号、都市計画道路川西猪名川線、川西伊丹線が通っています。東西では、川西市南部を国道176号とそのバイパス、中国自動車道が通っています。また北部には、新名神高速道路の川西インターチェンジが完成し、川西市の北部・中部から兵庫県西部や大阪、京都方面へのアクセス(交通手段で結ばれること)が便利になりました。



川西能勢口駅前(1978年ごろ)



川西能勢口駅前(2023年)

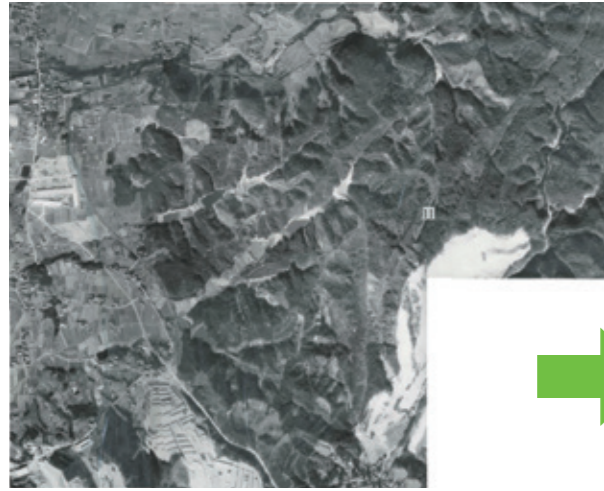


新名神高速道路川西インターチェンジ [写真は2017年11月時点、NEXCO西日本提供]

インターチェンジ

高速道路や自動車専用道路などと、一般の道路とを結ぶ施設やその出入口をいいます。

大和地区の移り変わり



1960年ごろ



2000年ごろ

10 宅地開発とニュータウン

高度経済成長

1955年ごろから1970年代初期にかけての日本が、年平均10%を超える経済成長を成しとげたことをいいます。工業技術の革新などにもともない、国民の所得が増加し、生活も豊かになりました。しかし、同時に物価の高騰や、大都市への人口の集中、公害などの問題も起こりました。

年	学校名
1947	川西中学校・多田中学校・東谷中学校
1961	川西南中学校
1975	清和台中学校
1977	明峰中学校
1978	川西養護学校
1979	緑台中学校

川西市の市立中学校・特別支援学校の創立年

1 高度経済成長期における人口の急増 ▶ p.12

川西市の南部は、大阪市から約15km圏内に位置し、鉄道を利用すれば25分程度で大阪市中心部へ行くことができるという交通面での好条件を備えています。高度経済成長期には、大阪市などの大都市への人口や産業の急激な集中にともない、住宅地が大都市の周辺に拡大し、川西市もベッドタウンとして発展してきました。

川西市の大規模な宅地開発は、1960年代から始まり、大手の住宅開発会社によって、中部や北部の丘陵地を中心にニュータウンが開発されました。その結果、1960(昭和35)年に約4万人だった川西市の人口は、2004(平成16)年に16万人を超え、人口の増加率は全国でも有数の高い値を示しました。これがさらなる開発につながり、当時、国が行っていた住宅の供給を増やす政策を背景に、住宅地が広がる結果になりました。



川西市のニュータウンの開発と人口の移り変わりについて、資料を参考にまとめてみよう。



赤松からのながめ(清和台中学校付近)



けやき坂の街並み



川西市のニュータウンの位置



多田グリーンハイツ内の商店街



山並みの見える住環境(湯山台)

ニュータウン名	所在地	開発面積 (ha)	販売開始年	世帯数 (世帯)	人口 (人)
多田グリーンハイツ	緑谷、水明台、向陽台 他	約230	1967(昭和42)年	6156	13402
大和団地	大和西、大和東 他	約173	1968(昭和43)年	4833	10699
清和台	清和台東、清和台西 他	約172	1970(昭和45)年	5247	11669
鷹の森	鷹台 他	約20	1972(昭和47)年	770	1833
萩原台	萩原台西 萩原台東 他	約49	1972(昭和47)年	1611	3691
川西藤ヶ丘ニュータウン	湯山台 他	約42	1973(昭和48)年	1362	2895
鷹が丘	鷹が丘 他	約13	1981(昭和56)年	390	896
鷹尾山けやき坂	けやき坂 他	約131	1984(昭和59)年	2554	6504
日生ニュータウン	丸山台、美山台 他	約116	1985(昭和60)年	3143	7582
北雲雀丘	南野坂 他	約23	1990(平成2)年	636	1827

川西市のニュータウン(世帯数・人口は2023年3月現在)



多田グリーンハイツの街並み



大和団地の街並み

補完性の原則

問題があれば身近なところから解決する考え方です。

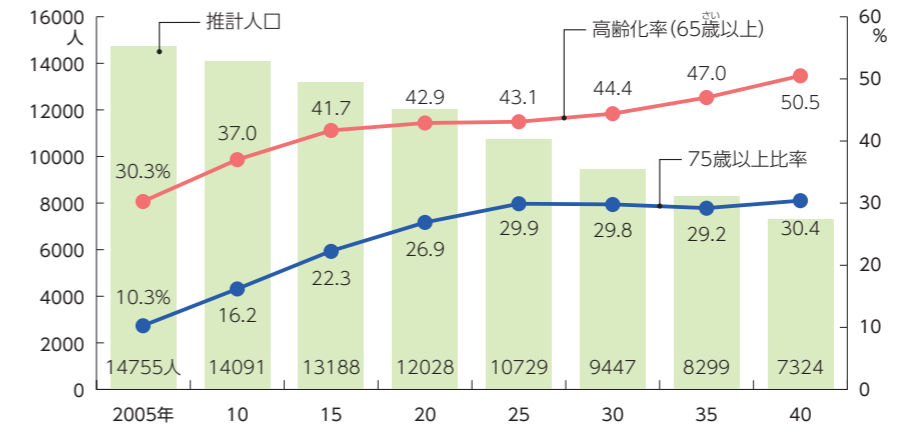
- **自助** (空き家の所有者)
個人で解決できる問題は、個人で解決する。
- **互助** (所有者の親族)
自助で解決できない問題は、家族が支援または解決する。
- **共助** (地域またはNPOなど)
互助で解決できない問題は、地域やNPOなどが支援または解決する。
- **公助** (役所・警察など)
共助で解決できない問題は、公共が支援または解決する。

2 ニュータウンの課題

1980年代後半になって、人口の増加が落ち着き始めると、市はそれまで後れていた道路や上下水道などの施設の建設に力を入れるようになり、道路の渋滞や学校・公民館など公共施設の不足の問題も解消されていきました。それ以後、20年以上が経過し、大規模なニュータウンの人口は、川西市の人口の約40%をしめるようになりました。早い時期に開発された多田グリーンハイツや大和団地では、開発されて半世紀の月日が経過し、周辺の緑地と調和した落ち着いたある街並みが育まれてきました。しかし、現在、これらのニュータウンでは高齢化が急速に進み、本来、優良な財産であるべき宅地や住宅において、空き地や空き家が増加する傾向にあります。

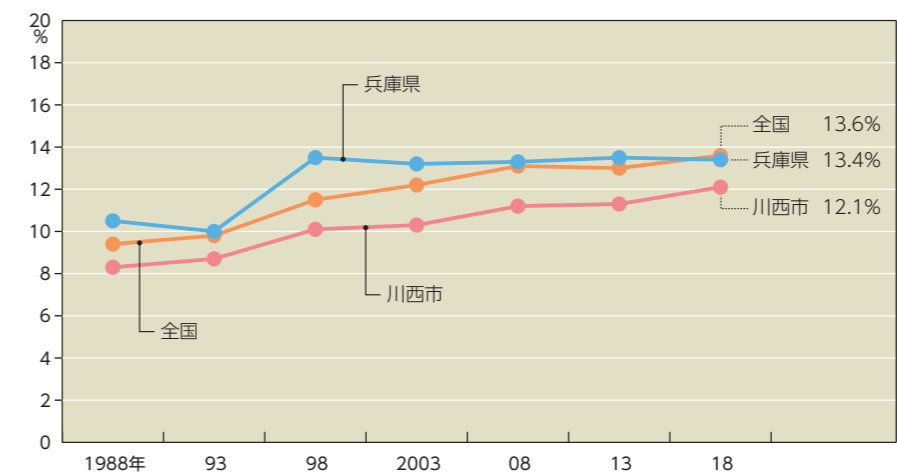
このような傾向を止めるためには、地域への関心がみんなに広がり、市民一人ひとりが空き家の発生予防に努める必要があります。そして、問題が発生すれば身近なところから解決するという考え方(補完性の原則)をもつことが大切です。

市では空き家の利活用や管理、予防のセミナーや個別相談会を開催するなど、市と地域、民間団体が協力して、良好な住環境を維持するための取り組みを進めています。



あるニュータウンの高齢化率と将来推計 [国勢調査]

高齢化率は、今後どうなっていくのかな。



空き家率の推移 [「住宅・土地統計調査」、総務省統計局]

川西市の空き家率は、全国平均や兵庫県平均より低い値ですが、年々上昇しています。

どうすれば空き地や空き家を減らすことができるだろう。



高齢化が進むニュータウンでは、このまま進めば、近い将来、住宅地としての魅力が失われ、地域の活力が低下することが心配されています。自分たちが住む「まち」について、今後、どのような取り組みをしていけばよいか、考えましょう。

川西市域の地名の由来

明治時代の資料をもとに作成しているため、現在の住居表示とは異なるものがあります。〔「かわにし 川西市史第8巻」〕

川西市の各地域には地名にまつわるさまざまな由来や伝承があります。主なものを見てみましょう。

川西市域の古くからの地名

ひとくら 一庫
古来この地に豪族が管理していた屯倉（庫）があったためと考えられている。

せいわだい 清和台
川西市は清和源氏の発祥の地であることによる。

ひうち 火打
西にある石切山から火打石を産出したことによる。

かも 加茂
この地域に古くから根付いた鴨君または鴨部祝という豪族の名前に由来する。

きぬのべし 絹延橋
機織り・多色染めをする際に、猪名川の清流で織り布を洗って河原に干したことによる。



川西
地名は立地に由来し、猪名川の西に位置するところから名づけられた。

ひがしたに 東谷
妙見山の南西にある三つの盆地のうち、宝塚市の西谷、猪名川町の中谷に対して東にある谷ということによる。

ただ 多田
平安時代から地名として使われている。丹波地方に通じる道や広い平原があり、農民が開墾し、田田邑とよんだことに由来する。

つづがたき 鼓ヶ滝
猪名川の岩場を流れる急流では、水が岩肌にあたって鼓のような音を立てていたことによる。

やとう 矢間
源満仲が神託により放った矢の行方を尋ねた（問うた）場所であることから名付けられた。

第2章 川西市の歴史



↑ 加茂遺跡



↑ 西畦野下ノ段・井戸遺跡 (兵庫県立考古博物館提供)



↑ 勝福寺古墳 石室



↑ 多田神社